あとがき

大学院社会福祉学研究科教授
研究紀要編集委員長　野　口　伐　名

この修士論文抄録集は、本学大学院社会福祉学研究科人間福祉専攻修士課程において人間福祉学を専攻した2004（平成16）年度及び2005（平成17）年度修了生の修士論文の抄録を「まとめ」たものです。その内訳は、2004（平成16）年度６名、2005（平成17）年度３名の計９名の抄録から成っています。それらの修士論文は、同論文のタイトルが象徴的に示しているように、修了生各自のそれぞれの問題意識に添うと共に指導教員の助言を受けながら、社会福祉の受益者である国民一人ひとりの「最善の利益」の視点から、現代の社会福祉の問題を考え個々の人間福祉の問題に着目して、実質的且つ具体的な解決方策を主体的に考究を試みています。この修士論文抄録集の刊行の大きな目的も、これら本学大学院修了生の人間福祉の学問的成果を世に問い、広く福祉社会の構築に貢献することにあります。それは、より人間らしい暖かい福祉の心の育成であり、社会福祉・社会保障の問題として、社会全体が関心を持ち解決していかなければならないからです。

「畏神愛人」のキリスト教理念に基づいて、2003（平成15）年に創設された本学大学院社会福祉学研究科（人間福祉専攻修士課程）が、第一回の修了生10名を送りだしたのは、2005（平成17）年３月19日（土）のことでした。修了生の学問的成果を世に問い広く社会に貢献するために、以来、懸案であった修士論文抄録集の第一号（創刊号）が、第二回の修了生７名を送る修士の学位授与の今日の良き日に、神の祝福を受けて刊行される運びとなったことは、私にとっても望外の喜びです。今思うと、私の力不足からあれもすればこれもすればと悔いも残りますが、修了生の皆様の極めて緻密な研究成果であるこの修士論文抄録集が、箪笥の奥深くしまわれることなく、更に一層の光輝く日本のいや世界の社会福祉をリードする「新しい風」となって、これからの修了生各自の新しい社会福祉の実践に十分に生かされますように期待しております。ルソーは、「人間の福祉」の心を培い、「真の福祉国家」を実現するために、次の「三つの原則のようなもの」を示しています。「第一の原則　人間の心は、自分より幸福な人々の身になってみることではなく、もっぱら、いっそう気の毒な人々の身になってみるものである」。「第二の原則　人は他人の不幸を、自分もそれをのがれたいと信ずるのでなければ、決してあわれみはしない。『わたしは不幸を知らないわけではないから、不幸な人を救うことを知っている』」。「第三の原則　人が他人のわざわいに対していだくあわれみは、このわざわいの量によってはかられるのではなく、それを苦しんでいる人に対して持つ感情によってはかられる」。

最後に、弘前学院長・理事長阿保邦弘先生、弘前学院大学長吉岡利忠先生から、この修士論文抄録集の第一号の刊行を記念してそして修了生の社会福祉ビジョンに向けて、慈愛溢れる励ましのお言葉をお寄せ頂いたことに深く感謝申し挙げペンを置きたいと思います。

2006（平成18）年３月18日（土）　2005年度学位修士授与式の良き日に